

トカク沙汰アリ、安貞元年三月十四日、春日行幸ノ料ニ、官行事ノ所ヨリ雨布ヲ進ズルニ、内侍所ノ御門守高倉コレヲ見ルニ櫃ノ中ニ物ナシ、其由ヲ奏スト云ヘドモ、出來セザルホドハ櫃バカリニテアリケルヲ、同二年正月十三日、頭治部卿親長神殿ニ入テ求メ出シタルヲ、新シキ櫃ニ納メラル、櫃モ損ジタレバ造リカヘラレニケル也、寛喜二年六月八日、内侍所ノ刀自三條女ガ人ニカタリケルハ、件ノ日、殿上人五六人内侍所ニ亂入シテ、狼藉ノ事共アリケリ、大刀契ノ櫃ノカダゲヲヲモ解キチラシ、ヒツモ破レニケリ、其中ニイヘノモノ一人アリケリ、思ハズナルコトニ人思ヘリケリ、此ノ櫃ハ、中頃鎖モサ、デアリケレバ、カタガタウスルモコトワリ也、平治ノ亂ニハ、信賴ガ大刀契ノ櫃ノカギヲ腰ニツケタリケルヲ、帥中納言コヒトリタリ、後ニ成親卿トリテ院○後ニマキラセタリケル、成親ガコトニアヒケルニハ、ソレヲ奉公ダテニシテ、トガヲユリント申シケルト申也、

〔禁秘御抄〕賢所

天慶元年、依有種々妖、温明殿修理之間、奉渡後涼殿、○中御辛櫃二合又五合、大刀契鈴印等也、

○按ズルニ、温明殿ノ御辛櫃二合ハ、寶鏡ノ御辛櫃ナリ、

〔桃華葉〕大刀契事

契者、親王大臣、及諸衛契符也、天徳同以修補之、魚符七十四隻、分入三囊、被加納大刀。韓櫃中、行幸時、左右近衛將監持候是也、以納内侍司印稱契櫃、以納兩種稱大刀櫃、

〔中右記〕寛治八年十一月一日己亥、先付内侍所、召集古老女官等、問節刀櫃本様之處、申云、長四尺許、但其中無鎖鑰、只以綱結之者、則以此旨可作之由、召仰行事史了、

〔北山殿行幸記〕大どけいの御からびつなど申物も、近頃は其形も見えぬこそ、いかなる故にどおぼつかなく侍れ、